

新潟市新津鉄道資料館 活性化基本計画策定に向けた 提言書(案)



平成 24 年 10 月

新津鉄道資料館活性化検討委員会

《 目 次 》

はじめに

活性化検討委員会組織体制

1 新津鉄道資料館見直しの経緯

2 現状の評価

— （ 秋葉区における文化施設のあり方検討 ） —

3 活性化事業の基本的な考え方

4 展示リニューアル

5 施設リニューアル

6 新津駅前サテライト

7 活性化基本計画

8 資料館リニューアルで想定されるスケジュール

9 組織体制

おわりに

【関係資料】

- (1) 新津鉄道資料館年間来場者数の推移
- (2) 新津鉄道資料館県外来場者数の推移
- (3) 常設展示（案）
- (4) 全国鉄道文化施設一覧表

はじめに

新潟市新津鉄道資料館は、「鉄道産業資料館として資料と知識を広く後世に伝え、鉄道に親しみを深めるとともに、市民の教養の活用に資する」ことを目的として設置された。

初代の資料館は、現在の東日本旅客鉄道株式会社新津車両製作所の敷地内に旧国鉄の施設を利用し、昭和58年（1983年）に開館した。展示品は、静態保存車両を含めて2,000点を超える資料を展示・公開した。しかし、資料館は施設の老朽化に伴い、平成10年（1998年）、国鉄時代から職員の訓練施設として使用されてきた旧新潟鉄道学園に移転した。この際、静態保存車両はJRに返却されたものの、移転に合わせて多くの市民から資料の提供を受け、現在は約8,600点にのぼる貴重な資料を収蔵・展示している。

しかし、収蔵・展示資料の多くは国鉄時代の資料からなるもので、目新しさに欠け、説明表示（キャプション等）も不十分であることなど、コレクションを十分に活かした状態とは言い難かった。さらには、幅広い年代層に楽しんでもいただける資料や展示が少なく多くの市民が身近に感じるような展示場の工夫も足りないということも課題として残されていた。

来年度、資料館は開館30年を迎える。これを契機に、新津鉄道資料館の魅力を再発見し、さらには鉄道文化施設としての役割、地域資源としての見直しを図り、より市民サービスの向上をはかる文化施設としていきたい。

このたび、当委員会として、新潟市の新たな魅力づくりの施設として利活用を図るために、活性化基本計画の策定とリニューアルに向けた提言をまとめた。

本提言書の構成は次の通りである。まずは、専門家・市民・市職員の方々から当館の現状評価をしていただき、そこで、出された課題を改善するために、資料館を活性化する事業の基本的な考え方を整理した。さらに、それを具現化するために、展示や施設のリニューアルや、関連して新津駅前サテライトについての基本的な考え方を示す。

皆さまから親しまれ、後世につなぐ鉄道文化・産業の資料館として機能していくことで、市民はもとより全国から多くの方々を訪れることを願ってやまないものである。

平成24年10月1日
新潟市新津鉄道資料館活性化検討委員会

活性化検討委員会組織体制

□検討委員

法政大学キャリアデザイン学部 教授	金山 喜昭
元交通博物館学芸員	佐藤 美知男
南山大学講師	里見 親幸
にいがた観光カリスマ	南雲 友美

□事務局

新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課

新潟市文化観光・スポーツ部文化政策課

□協力

交通科学博物館

新潟市秋葉区役所

□活性化検討委員会開催概要

回数	開催日	検討内容
準備会	平成24年 6月11日(月)	検討委員会の運営について
第1回	7月 2日(月)	資料館のミッションと運営方針の見直し
第2回	7月23日(火)	運営方針と事業内容を確認する
第3回	8月 7日(火)	現場の展示内容確認と意見交換
第4回	9月11日(火)	展示プランと展示シナリオの原案作成
第5回	10月1日(月)	提言書のとりまとめ

1 新津鉄道資料館見直しの経緯

新潟市は、平成17年（2005年）に広域市町村による合併を行った際に、旧市町村で管理・運営していた地域の文化施設も引き継いで管理しているが、その運営形態は一部見直しを行ってきたものの、当館は従来そのままになってきた。

平成23年度、文化政策課においては、金山法政大学教授をアドバイザーとして迎え、地域の文化施設や活動に関する洗い出しを行い、その施設や地域の活性化の課題解決に向けた方向性を探るために、市民と施設関係者とのワークショップによる「文化施設あり方検討」を実施し、秋葉区からは4施設（新津鉄道資料館、石油の世界館、新津美術館、小須戸町屋）の検討が行われ、参加者により各施設の現状と課題を洗い出すとともに、各施設の今後のあり方について意見交換を行った。

その後、秋葉区の重点施設として市職員を中心に金山アドバイザーと佐藤元交通博物館学芸員などによる新津鉄道資料館職員検討会を開催し、資料館の課題の再整理や今後の運営などについて意見交換をした。

平成23年12月には、これらを取りまとめ、文化政策課からは、秋葉区の文化施設のあり方検討結果の報告と併せ、当資料館の活用と取り組む方向性について市長へ報告を行った。

平成23年

- 7月28日 金山アドバイザーによる秋葉区内施設の現地確認を実施
- 8月8日 秋葉区における文化施設のあり方検討第1回ワークショップ
テーマ「わがマチの文化施設を良くするために」
参加者：20人（市民13人、職員7人）
- 8月22日 秋葉区における文化施設のあり方検討第2回ワークショップ
テーマ「わがマチの文化施設を紹介します」
参加者：19人（市民13人、職員6人）
- 8月29日 秋葉区における文化施設のあり方検討第3回ワークショップ
テーマ「文化や文化施設との連携をさぐる」
参加者：19人（市民12人、職員7人）
- 9月5日 秋葉区における文化施設のあり方検討第4回ワークショップ
テーマ「文化施設を運営する行動計画を作ろう」
参加者：20人（市民13人、職員7人）
- 10月24日 第1回新津鉄道資料館職員検討会
検討内容「資料館の運営のあり方について 他」
参加者：15名
- 11月25日 第2回職員検討会
検討内容：「資料館をより良いものにしていくために 他」
座長：金山アドバイザー
参加者：13名
- 12月28日 第3回職員検討会
検討内容「資料館の改善・活性化について 他」
参加者：15名
- 同日 鉄道資料館を再生するため検討されてきた、秋葉区における文化施設のあり方検討、また職員検討会の検討結果の報告と合わせ、鉄道資料館をより具体的に再生していくために検討を進める組織（このたびの本検討委員会）を設けることについて、市長へ報告を行う。

2 現状の評価 —（秋葉区における文化施設のあり方検討）—

<p>評価者</p>	<p>専門家による現状評価： 交通科学博物館（大阪市港区） ①交通科学博物館 高井 洋文 課長 様 ②交通科学博物館 島 崇 学芸員 様</p>
<p>意見 改善提案等</p>	<p>1. ファミリー層（お子様）に楽しんでいただく 未就学～小学生くらいの年齢層では、部品・用具の見学や、解説パネルを読むことにより、学習したり、感心したりということはあまり見られない。「乗り物」の形が分かる実物車両や模型、動きに変化が出る可動式の展示装置を好んでいる。 当館におけるこの年齢層の動向は、模型の見学や、体験・体感型展示で人気集中している。（実物の運転台、運転シミュレーター、クイズ、ゲーム、模型運転 など）</p> <p>《改善策》</p> <p>1) 解説パネルの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字量の工夫。 ・お子様に読みやすいパネル構成を心がける。 （文章表現の工夫、ルビ、イラストや写真の多様、文字の大きさや読みやすいフォント、パネルを設置する高さを考慮。） <p>2) 模型等の増設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両模型展示コーナーを設ける。もしくは、展示に模型を多用する。 ・模型に触れられる。動かすことができる。 ・鉄道パノラマは、情報や情景にこだわるより、車両にバラエティーをもたせる。特に身近な車両や、（上越）新幹線などは、鉄道を知らない親御さんでも分かりやすいので車両について子供との会話ができる。楽しめる。 <p>3) 展示場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマをしぼる。（展示品数の整理） ・導線を設け、鉄道になじみのない方に配慮する。 ・各展示品において見学者に何を伝えたいかを明確にして展示を構成。 <p>2. オリジナル性のある資料館づくり</p> <p>1) 地域性を持たせた展示</p> <p>新潟や新津など、ここでしか見られない地域性の高い展示を資料館のメイン展示とすることで、鉄道好きな方はもちろん、そうでない方でも、新潟観光のひとつのスポットとして興味を持ちやすい展示を目指す。</p> <p>また、地域の学校教育との連携を図り、鉄道技術とともに栄えた「鉄道のまち・新津」の郷土史を学ぶことができる教育の場として活用（社会見学、校外学習など）していただく。</p> <p>キーワード</p> <p>「鉄道のまち・新津」「鉄道学園」「雪とたたかう」「赤谷線」「蒲原鉄道・新潟交通」など</p> <p>2) 各種イベントの開催</p> <p>サークル、クラブ、同好会、鉄道OB、新潟支社、工場などにご協力いただき、各種イベントを定期的に行う。イベントを通して、多くの方に資料館に来ていただくとともに、世間に対して話題を提供することにより広く資料館を知っていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道模型の運転会 ・ミニSL運転会 ・同好会など研究発表の場 ・鉄道施設ウラ側見学会 工場見学会 ・会合の場として使っていただく など <p>3. 現在の展示場について（懸念事項）</p> <p>1) 資料の劣化</p>

	<p>展示中の資料について、日光や室内照明によるものと考えられる、色の退色が見られた。特に、紙資料類、記念切符類が顕著である（写真も懸念される）。退色は日々進行するため出来るだけ早期の対処が必要。</p> <p>＜改善策＞</p> <p>退色の主な原因は、太陽光や照明から出る紫外線と考えられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓については、カーテンを閉める。もしくは紫外線をカットできるフィルム等を貼る。 ・照明については、LED照明（紫外線が出ない）に変更する。もしくは、展示用（紫外線が出ない）の蛍光灯を用いる。 ・光が資料に当たる時間を少なくするため、展示する資料の数を減らし、定期的に資料を入れ替える。 ・レプリカ（複製）を用いる。 <p>2) 盗難の問題</p> <p>お客様のモラルの問題が一番に挙げられるので難しい事柄。しかしながら、博物館・資料館の展示資料は一点一点が各自「ストーリー」を持っており代替品が存在しないため、セキュリティ面で特段の配慮が必要。</p> <p>＜改善策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意書を展示場に貼る。 ・鍵付きの展示ケースの導入など、展示ケースの整備を行い、大型や重量展示物以外はケース内展示とする。また大型展示等についても柵やアクリルパネル等で「バリア」を作ることにも一考である。 ・巡回を強化する。（資料に異常がないか点検する） ・ダミーでも構わないので、防犯カメラ、もしくは警報装置等を増設する。（防犯カメラは録画機能をつける） ・展示点数を減らす。（点検を容易にするため など） ・定期的に展示替えを行う。 <p>4. 「寄託資料」について</p> <p>「寄託資料」での資料館運営は、今後も難しくなることが予想される。盗難や破損・汚損となった場合の所有者への対応が挙げられる。また、他館等への貸出し、資料の補修や複製の製作などが必要となった場合は、所有者へ許可を頂かなければならないので、緊急時などのスムーズな対応が難しい。さらに、所有者の意向により資料を返還する義務が生じる状態は、資料を適切な状態で保存し、散逸を防ぎ、後世に伝えるという役割を有する資料館や博物館の資料管理上適切でないと考えられる。</p> <p>円滑な資料館運営のためにも、「寄託」による運営はご検討いただいたほうが良いと思われる。</p>
--	--

<p>評価者</p>	<p>専門家による現状評価： 元交通博物館学芸員 佐藤美知男</p>
<p>意見 改善提案等</p>	<p>1. 資料館まで</p> <p>①駅から遠い。道中も単調なので、2キロ歩くのはきつい。歩くのが楽しい道（道中）ならば可能か。</p> <p>②駅からの行き方がわかりにくい。案内所も閉まっていて無人。バス乗り場が離れていて、時刻や運転間隔が不明。</p> <p>2. 資料館の印象</p> <p>①鉄道に縁がある建物だが、外観の魅力と期待感に乏しい。</p> <p>②収蔵資料の種類と数量は豊富。専門的なものから一般的（当たり前）なものまでの部品や用具があって、魅力と価値がある。</p> <p>③展示と保存の面では、資料を生かせていない。もったいない。見せ方の工夫が必要。</p> <p>④資料や解説板・パネルなど全般に劣化が目立つ（特に退色）。資料は保存上、心配。</p> <p>⑤展示構成は一応大分類され、整頓されているが、系統・順序立っていないため、どのように見て行ったらいいか迷う。</p>

- ⑥資料に解説がないものがある。
- ⑦図書室には基礎的な蔵書がある。「新潟支社報」は貴重。
- ⑧資料登録は予想以上に整理されているが、細目情報が不足（使用年代、使用箇所、用途、使用方法など）。
- ⑨屋外展示品は雪のため劣化が目立つ（金属製も木製も）。将来も心配。
- ⑩特別展会場スペースなし。
- ⑪経費不足と、専従者・専門職員不足の印象。
- ⑫館付近に飲食の場所なし（休憩をとりたい場合）。
- ⑬資料館の他に、近辺や周囲に魅力・関心があるものがないと、一般客（外部の人）は来にくいし、リピーターにはならない（特に女性）。

3. 現状での改良

- ①全体的な化粧直し。
- ②博物館用照明（無紫外線）の導入。
- ③展示方法の整備。例えばディーゼルエンジンは枕木で支えるのではなく、実物に近いような台枠に吊るす。
- ④実物車両がほしい。
- ⑤日本鉄道保存協会年次総会の誘致。
- ⑥シャトルバスの運行があるとよい。
- ⑦例えばトイレを汽車便所の変遷にして、レプリカで過去からからの便器を並べ、実際に使用してもらおう（話題性として）。

4. 今後

- ①駅前の新館は望ましい。旧0番線までを屋根で組み込んで、実物車両を保存する。
- ②新潟固有のテーマ「雪」（防雪、除雪など）について充実する。
- ③名称と内容を“新潟鉄道資料館”に拡大してはどうか。市と県の合同施設にするあり方は可能か。
- ④これからは本物の時代。豊富な資料を生かして、“生きた鉄道知識の博物館”“実物で見る鉄道学習図鑑”を目指してはどうか。鉄道博物館とは違って、鉄道基礎知識の展示を充実させる（レール、線路標識、道具、プレート類、保線などの分野）。
- ⑤駅前にある神尾弁当部を活かせないか（ミニ駅弁博物館など）。
- ⑥一時的なイベントではない、街自体の魅力の増加も必要。
- ⑦昭和40年代の駅と町を再現。“昭和40年村”はどうか。

5. その他

- ①新潟（新津）は鉄道の車種が多いから、鉄道好きには魅力ある土地。
- ②博物館施設で黒字化は困難。グッズ類の売り上げは高が知れている。
- ③経費を出し、経費を出し続ける意志が市にあるかどうか。
- ④他の自治体の取り組みとして、長浜（黒壁ガラス館）、伊勢（おかげ横丁）、青梅（レトロタウン）、丸瀬布（森林鉄道機関車の運転）などの状況。
- ⑤JRは乗客増につながればのってくる可能性あり。
- ⑥鉄道博物館を参考にはするが、新津の独自性を。

<p>評価者</p>	<p>市民による現状評価： 秋葉区における文化施設あり方検討会ワークショップ参加者</p>
<p>意見 改善提案等</p>	<p>1. 良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示が見やすい ・「行き先表示板」など実際に使用された実物が数多くあり展示数は充実している。 ・通常の地域の文化施設とは異なり、産業から生じた独特の文化を対象にしている。 ・新潟交通や蒲原鉄道など廃止されているが歴史的で貴重な資料がたくさんある。 ・展示が近く見やすいし、触れられる。 ・記念切符や銘板など貴重な品物が多い。 ・マニア受けするし、品物にまつわる話を聞くと案外おもしろい。 ・鉄道博物館にない貴重な資料がある。 ・秋葉区には電車を製作する工場がある。 ・昔から二大鉄道の町は新津と米原が有名。 ・新津周辺では活きたSLに接することができる。 ・鉄道に関する事項をすぐに知ることができる。 ・説明が詳しい。 ・入館料が安い。 <p>2. 悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きのある展示品が少ない。 ・子供達が興味を持ってそうな展示品が少ない。 ・操作、体験できる展示や資料が少ない。 ・多目的に利用できる場所が無い ・エアコンが少ない、夏暑く、冬寒い。 ・駅から遠いうえわかりづらい場所にある。 ・交通アクセスが不便、もっと便利にしたほうが良い。 ・「鉄道」だけに駅に近いほうが良いのではないか <p>3. 資料館としてのミッション（使命）の方向 「市民に喜ばれる資料館に」</p> <p>4. 新津鉄道資料館としての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションは充実しているが、全点の把握（データベース化）が不十分である。 ・施設管理をする臨時職員と鉄道友の会との連携がない。 ・新津のまちなか（商工会議所、商店街）、JR東日本との連携が弱い。 ・個別地域との結びつきが少ない。 ・古い年代の資料展示で高齢者層には好評だが、新しい切り口の展示がなく、若年層にはアピールできない。 ・学校の社会教育には有効であっても、外から訪れてもらう施設としての継続性に結びついていない。 <p>5. 対応策</p> <p>①短期の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主事業費を予算化して、新たな事業展開で、アピールを図っていく。 ・台帳、資料整理を行うとともに、作業に伴う人員の確保も視野に入れる。 ・協働で事業を実施できる組織作りが必要である。 ・JRなどの協力を得て、新たな収蔵品の確保と展示内容の見直し、展示のコンセプトづくりを進めていく必要がある。 <p>②中長期の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館料の無料化も検討する。 ・全国の鉄道文化施設との連携や共同事業などを行うことで、魅力の向上に努める。 ・まちなかと資料館の活性化のため、新津駅前に「サテライト施設」を設置する。

<p>評価者</p>	<p>市職員による現状評価： 新津鉄道資料館職員検討会</p>
<p>意見 改善提案等</p>	<p>1. 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ案はあるが、それをこなせる「知識を持つ人材がいない」 ・地元から歓迎されている施設ではないようだ【地元との共生】 ・情報発信力の不足 ・展示物が豊富な一方、現施設が手狭 ・収蔵品台帳はある一方、「寄付品」と「寄託品」が混在。 ・現在の展示内容は「動かない」「現物の車両がない」「古い」で魅力が弱い ・館外における交流（市民、団体問わず）が不足している ・資料館を支える組織を ・もっと身近な展示を進める ・広く資料の収集を ・公共交通アクセスが非常に悪い ・鉄道資料に関する「知識・人材に乏しい」・・・人材がいない現状 ・様々な面で「現場の改善」が必要 ・マニア向け or 一般、子ども向け、どちらの展示路線でいくか ・展示物だけでは、鉄道博物館や交通科学館にかなわない。それをどう使っていたかを語ることによって、「鉄道のまち」のオリジナリティを出すか。 ・現物の車両が1両もないのはさみしい。かつて走っていた車両が1つでもあると印象が違ってくる。 ・展示が古い（SL時代からの展示があるが、新しいものは昭和50年代で止まっている。） <p>2. 方向</p> <p>【短期・明日からできること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる情報発信（情報発信ブースの設置、他の施設と連携） ・他のイベントとの連携強化 ・収蔵品を出来る限り「寄付」にすべき。「寄託」では館外での展示が制限されるなど、今後の十分な展開が図れない。 ・展示品の詳細な説明文を ・小学校の総合学習への取り入れを。また、保育園や幼稚園の招待。 <p>【中期・1年以内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新津駅を出てから資料館へ行きやすくする環境づくり（特定の日に無料バス？） ・鉄道を通じた交流（鉄道にまつわる他市町村との交流、情報相互発信） ・鉄道の歴史に関心を持ってもらい、鉄道のまちをもっと知ってもらう取り組みを ・「鉄道資料館ガイド」の養成（資料館職員のみならず） ・ガイド付きの館内案内（随時では大変なので、月に1～2回などと設定する。） ・「石油の世界館友の会」のような「友の会」の結成 ・身近な鉄道雑学的な紹介も（時刻表の変遷、一番距離の長い電車、高度にある駅） ・市民などからの寄付を受け付ける体制を（品の見極め、受入可否判断は大変だが、オンラインワンの施設を目指すため幅広い資料収集を） ・職員の配置（収蔵品点検、展示入替、資料収集には不可欠） ・JRとの協力関係の構築＝資料館活性化には必要不可欠 ・他の鉄道に関する博物館・資料館とのネットワーク・連携づくり（借用などによる相互展示など） ・展示を変更する（ストーリー性を持たせ、「鉄道のまち」が見えるように。鉄道の歴史、文化としての鉄道、生活に関わってきた鉄道、などゾーン設定など） ・屋外展示の改善（ただ置きっぱなしの感がある。） ・素晴らしい収蔵品があるものの、色あせないような展示方法が必要（蛍光灯→LEDなどへ） ・年に数回（季節毎）にイベント開催（リピーター増につながる取り組みを） ・新津駅前からの誘客強化を（新津駅前にサテライトはどうか）

・新津駅のほか新潟駅などにも鉄道ブースを設置して、「資料館に行ってみたい！」という興味をひくPRを（=JRとの協力関係の構築）

【長期・3年以内】

- ・展示のリニューアル【マニア向け or 一般、子ども向けの企画・展示】
（例：体験型運転シミュレーター、ミニSL運転など。鉄道OBの解説付きで。）
- ・交通アクセスの改善（区バスの現路線変更など、新津駅前からの誘客）
- ・JR東日本新津車両製作所などの協力を仰ぎ、電車の技術革新を取り入れた展示を

3 活性化事業の基本的な考え方

- (1) 資料の収集の強化
- (2) 調査研究
- (3) 展示
- (4) 教育普及事業
- (5) 情報発信事業
- (6) 利用者サービス
- (7) 他館との連携
- (8) 地域ネットワーク

4 展示リニューアル

5 施設リニューアル

6 新津駅前サテライト

7 活性化基本計画

8 資料館リニューアルで想定されるスケジュール

9 組織体制

おわりに

当検討委員会では、新津鉄道資料館の展示・施設のリニューアル、さらには資料館そのものの機能強化を視野に入れながら、その活性化のための諸施策について検討した。

新津鉄道資料館は、ユニークな歴史と文化を表現する鉄道に関する文化施設であるとともに、その魅力は市民のみにとどまらず、県内外でも評価される。

新潟市としては、その個性を十分に活かし、伸ばしていくとともに、鉄道の魅力を市内外にアピールし、もって地域の活性化、「鉄道のまち新津」の情報発信につなげていく。

これまでのように、単に「文化施設という“箱”の管理・運営を行う」のではなく、新津鉄道資料館を、新潟市の新たな魅力づくりの施設として地域や鉄道関係者との連携により運営していくことが求められており、市は、この提言書を踏まえ、新津鉄道資料館を活性化することに取り組んでいただきたい。

併せて、新津鉄道資料館の魅力を向上させるには、地域住民、JR、様々な鉄道関連団体との連携・協働が必要不可欠である。市はそれらの地域住民・団体との良好な関係作りにも努力されたい。

当検討委員会は、市が新津鉄道資料館の活性化を図り、真の「鉄道のまち新津」づくりと、その魅力発信が実現することを期待してやまないものである。

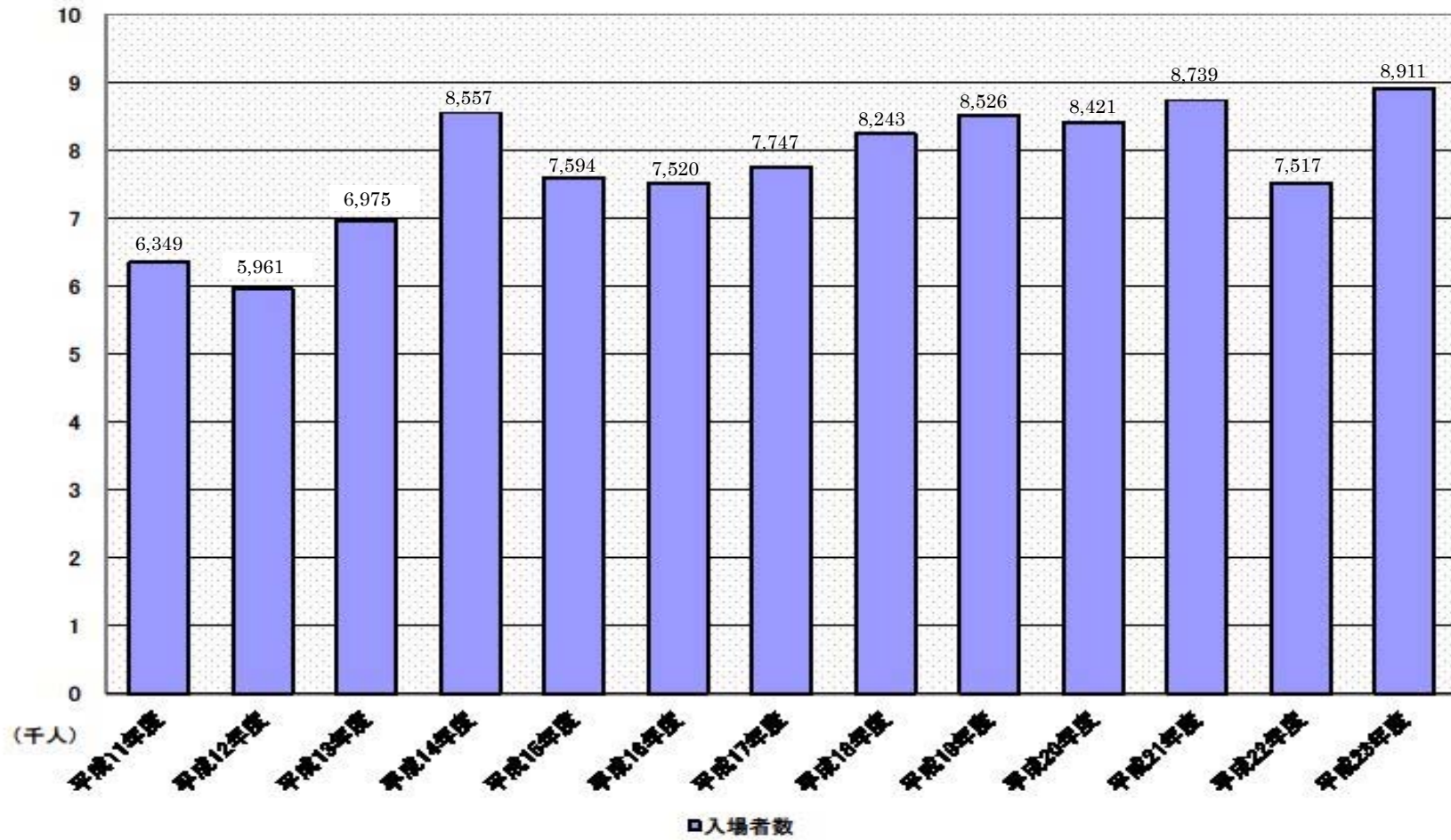
新潟市新津鉄道資料館活性化検討委員会

【資料】

- (1) 新津鉄道資料館年間来場者数の推移
- (2) 新津鉄道資料館県外来場者の推移
- (3)
- (4) 全国鉄道文化施設一覧表

資料 1

新津鉄道資料館年間来場者数の推移



資料 2

新津鉄道資料館県外来場者の推移

